熊日1971.10.21

大矢野町でも水俣病患者？

12年前に一人死亡

遺族が"再調査"訴える

潜在水俣病患者の発掘が不知火海沿岸ですすめられているが、天草郡大矢野町でも、十二年前に一人の漁民が水俣病とよく似た症状で死んでいることがわかった。この漁民は、水俣病多発地帯の水俣市茂道に長期間、出かせぎ漁業に行っており、遺族は「主人の死を発掘してでも、再調査してほしい」と訴えている。

この人は同町長砂連（ながされ）の漁業Aさん＝死亡時五十九歳＝で、友人の同町、商業Bさん（六七）の話では、Aさんは発病前から数年間、水俣市茂道へ出かせぎに行っており、一本釣りや漁船に雇われたりして、袋湾の魚介類を常食していたという。

三十三年ごろ、急に目が悪くなり、耳も聞こえず、よだれを流したり、歩行も困難になったので、大矢野に帰り、同町視の鶴崎桃士医師（六四）にみせたところ、脳動脈硬化症と診断された。しかし同医師は念のためにと水俣での検診をすすめ、Aさんは水俣市立病院を紹介した。

同病院の診断結果は「水俣病はほとんど考慮する必要はない。言語障害、難聴、歩行障害は脳動脈硬化症によるものと考えられる」ということで、Aさんは動脈硬化症の治療を受けながら三十四年十月、死亡した。

・しかし、Aさんをよく知っている友人たちは「水俣で長期間、魚介類を食べており、新聞やテレビで見た水俣病の病状とそっくりだった」と言っており、三十四年当時の認定基準や診断技術からすれば、Aさんが水俣病にかかっていた疑いはきわめて濃厚。

これについて、現在、大阪府堺市の長女絵に母を預けているAさんの妻（六三）は「主人はたしかに水俣病だったと思う。お墓は土葬なので、発掘してもう一回科学的に調べてほしい」と強く訴えている。

大矢野町のケースの発掘で、疑わしい患者のひろがりは、御所浦、龍ケ岳、牛深とひろがったわけで、不知火海沿岸の有機水銀汚染の広さ、深さを示すものとして注目される。